

悠久

第 43 号



雲南省麗江—玉龍雪山

本号の内容

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| ① 友好活動報告 | 会長 片山 浩子 |
| ② 青島日本人学校での生活 | 青島日本人学校 教諭 稲本 多加志 |
| ③ 2013 STUDENT EXCHANGE in 大連 | 岡山県立西大寺高等学校 国際情報科2年 秋山 佳代 |
| ④ 岡山県日中懇話会友好訪中—江西省と雲南省を訪ねて— | 前 岡山県立総社高等学校長 新井 悟 |

March
2014

岡山市日中友好協会の友好活動報告



会長

片山浩子

中国では春節も終わり、いよいよ新しい年の幕開けとなりました。

一昨年の尖閣列島の問題以降日中関係は急速に冷え込み、政治はもちろん民間の交流も停滞しています。

そのような状況の中、当協会では、昨年四月に土井章弘日中医療交流委員長を団長とする5人の「日中医療交流促進訪問団」が医療交流を促進すべく洛陽市を訪問し、これを契機として交流が動き出しました。七月には岡山旭東病院から医師と看護師の二名、岡山県精神科医療センターからは医監一名の計三名が洛陽市の病院へ赴き研修交流が実現しました。そして十一月には河南科技大学付属第五病院から医師一名が来岡され岡山県精神科医療センターでの二か月の研修を実施しました。

この日中医療交流の成果として、本年二月末には『日中医療便覧』という冊子が発行されます。日本と中国の医療事情を詳細なデータと実際に見聞した内容を踏まえてわかりやすく解説したもので、日中対話にもなっており、専門家のみならず、多くの人に購読していただきたいと思っています。

また、当協会の活動の大きな柱の一つに中国での緑化事業があります。これは日中緑化交流基金（東京）の助成により、洛陽市の黄河沿い白鶴鎮での植樹活動です。昨年より、岡山大学農学部との協力を得て、測量から土地にふさわしい樹種の選択など現地の実業局との合作で実施しています。本年度は、日中大学生の植樹ボランティア参加で実施できればと考えています。

その他協会では、中国を正しく理解し相互理解促進をはかるため、友好訪問団の派遣、公開講演会の開催、中国語講座の実施など多種多様な活動を行っています。

日本と中国は引越せない隣国同士です。経済的にも切っても切れない相互依存関係にあります。多くの問題がありますが、草の根の力で交流を途切れさせることなく継続していきたいと思えます。特に、これからの日本を背負っていく青少年の交流は今後の日中友好を保証するものです。力を合わせて民間交流を活発にしていきたいです！

青島日本人学校での生活



青島日本人学校
教諭 稲本 多加志

■青い海に囲まれた都市

みなさんは、「青島」をご存じですか？今では、尖閣諸島問題により、激しいデモが起きた地として良くないイメージをもっている人が多いかもしれませんが、しかし、実際に住んでみると、治安が悪いことはありません。また、中国人にとっては、二〇一二年には「幸福度の高い中国の都市」で第一位に選ばれているほど、人気の高い都市です。その理由は地域性を生かした海洋産業と観光業にあります。青島市は、中華人民共和国山東省を代表する主要な湾岸貿易都市で、国内の国際コンテナ取扱量では第四位の港を抱える海洋産業の中心都市の役割を担っています。また、二〇〇八年北京オリンピックでは、セーリング競技が開催されました。海を見る機会の少ない中国人は多いので、海のきれいな青島は、夏の期間中には多くの観光客が足を運び、大きな賑わいを見せます。オリンピック会場の西側には、青島がかつてドイツに統治されていたことから、今もドイツ風の赤い屋根、レンガ造りの街並みが残り、異国情緒を味わえます。現在世界的に知られている青島ビールもドイツ占領時代の産物です。このような、他の都市にない魅力が青島にはあります。

■青島日本人学校の概要

本校は、今年で創立一〇周年を迎え

る全校児童生徒数七十七人の小中併設校です。

二〇〇〇年に補習授業校としてスタートし、二〇〇四年には、青島日本人学校が開設されました。当時六名だった児童生徒数は増え続け、二〇〇八年には七十二名の児童生徒を迎え入れる新校舎が完成しました。人数が一〇〇名を超えた時期もありましたが、日中関係の悪化や環境問題により、今は減少傾向にあるのが実情です。

■青島日本人学校の教育

本校では、目指す児童生徒の姿として、「豊かな心を持ち、自ら学び鍛えるたくましい児童生徒の育成」を設定し、日本と同等以上の教育を求める保護者の願いや、青島の実情を生かした教育課程を編成しています。同時に、中国の自然・歴史・文化に触れることを通じて、国際性豊かな児童生徒を育



日本人学校 正面風景

成することを目指として、さまざまな活動を行っています。

学習については、学力向上を目指して、学習指導

要領に沿って日本の学校と同じように授業をしています。さらに、全学年で毎週、中国語と英会話の授業を行っており、現地採用の中国語・英語のALTと協力して語学力向上にも努めています。

また、週一回の学年の枠を越えた縦割り昼食や、小学生と中学生が一緒になって活動する児童・生徒会活動など、小規模校であることを生かして、学年を越えた教育活動も行っています。

日本の学校と同様に、本校にもさまざまな学校行事があります。運動会や学習発表会といった規模が大きい年間行事については、小学部も中学部も合同で行います。人数が少ないため、一人がこなす仕事の量・責任は自ずと多く・大きくなりますが、何事にも一生懸命に取り組むことができる本校の子ども達は、こういった行事を通して着実に成長しているといえます。

毎日スクールバスや家用車で通い、下校後も日本のように気軽に外に遊びに行けない子ども達は体力が低下しがちです。そういった青島の実情を



上清路小との交流会

考慮し、子ども達の体力向上のための教育活動も行っています。在外施設としては珍しく、小学部は夏休みに四週間ある夏休みのうちの二週間、学校開放をして水泳学習を推進しています。少人数でみっちり指導できるので、この期間中に、どの児童も泳力を格段に伸ばすことができています。中学部は部活以外に、S T Cという課外の時間を設け、約一時間、青島サーキットとよばれる体力作りコースを使って基礎体力作りを行っています。その成果は持久走大会などに表れています。

国際感覚を養うため、現地理解教育にも力を入れています。

小学部は、二〇〇四年から市内の上清路小学と年一回の交流を続けています。隔年で学校を行き来し、一緒に授業を受けたり、中国なら京劇、日本なら和太鼓など、自分達の国の文化を紹介したりします。中学部は現地中学校や専門学校生など、その年によってさまざまな人達と交流しています。今年も第六十五中学に行き、一緒に書道の授業を受けたり、運動会の練習

会場の練習



中学部の和太鼓演奏

を参観したりしました。普段学習している中国語を生かしてコミュニケーションをとることは、国際理解を肌で感じる貴重な機会となっています。

国際理解を促進するためには自国の文化も理解することが大切です。本校では、三種類、二十一個の和太鼓による演奏が伝統となっています。小四から太鼓練習をはじめ、参観日・運動会・学習発表会など、さまざまな場面で各学年が演奏を披露します。現地校との交流会にも欠かせません。小学部は音楽の教科書に載っている教材をベースに練習しますが、中学部は楽譜のない曲が代々受け継がれています。教員の移り変わりも激しいので、頼りになるのは演奏を生で見ても、聞いている生徒達です。まさに伝統の技です。今年も運動会で披露しただけでなく、一〇周年記念式典でも演奏しました。必死に練習した成果は、参列した理事や中国人関係者も感動させ、時には涙を誘うほどのものでした。

■中国での教育環境

このように、日本の学校と同等、それ以上の教育を行うことを目標に日々の教育活動に取り組んでいます。国によって政策や考え方が違うため、困難に直面することもあります。

例えばテストやドリルについては、税関の手続きが遅く、到着が五月や六月になることもあります。学校図書館として購入した書籍の中に、尖閣諸島

を記した地図が載っていたため、日本に送り返されたこともありました。運動会開催日の決定には、中国の公安や領事館も間に入って検討を重ねます。柳条湖事件の日を避けるためです。現在問題視されている大気汚染についても対策をとっています。汚染指数が一〇〇以上なら屋外での運動は控えるなど、医療機関や他の日本人学校と連携をとりながら、児童生徒の健康も考えて活動をしています。

日本では普通にできることを制限されてしまう活動に社会科見学もありません。

中国では、浄水場やごみ処理センターなどの見学が行えません。そこで欠かせないのが企業との連携です。青島には世界売り上げ第一位のA E O Nグループを始め、さまざまな日系企業があります。そういった企業の皆さんが店内やパン工場の見学、手巻き寿司体験、お好み焼き教室、といった活動を提供してくれます。また、中学部では今年度、十一の営業所で、日本と同じように



朝日緑源農業体験

職場体験学習を実施することができました。無農薬で循環型農業を営んでいる

朝日緑源有限公司では、野菜の収穫や雑草抜きといった宿泊農業実習を体験させてくれます。中国でも安全でおいしい食物を育てている人達の姿を自分の目で見て、共に活動する体験は、子ども達の中国への先入観を変える貴重な経験となっています。

こういった活動は日本人の方々だけでなく、現地スタッフの方々が手伝ってくださいます。中国人スタッフは、言葉が通じなくてもみなさんとても親切です。「海外の子どもたちのために教育を」という思いは、学校だけでなく、現地の日本人や中国人によって支えられていることを実感しています。

■日中友好に向けて

この二年間は、日中関係の問題で教育活動に影響を受けることも少なからずありました。けれど、円滑に活動が行えたのは、駐在している日本企業の皆様やP T Aの方々はもちろん、たくさんの方の中国人の方々に助けてもらったからです。子どもの健やかな成長を願って、笑顔で接してくれる中国人の姿は印象的でした。実際に現地の人とふれあうことで得られる経験は何ものにも代えられません。

今後も、日本と中国それぞれの国の良さを自分自身がしっかり学びながら、子ども達の教育に還元し、日中友好の一助となるよう努力していきたいです。

2013 STUDENT EXCHANGE in 大連 「自分の目で見たもの」

岡山県立西大寺高等学校

2年国際情報科 秋山佳代

「中国が好きではない」最近この言葉を日本で多く耳にします。私の周りでも中国に対してはあまり良い印象はないと思っている人は少なくありません。またニュースや新聞で中国と日本のよくない関係についての報道が流れ、その度に私たちの中国への印象がますます悪くなったりするのです。しかし私は確信しています。「行ってみないとわからない」とが、きつとある、自分の目で、耳で、体全体で感じたい。」そして私は STUDENT EXCHANGE IN 大連に応募しました。

八人での五日間の旅はあっという間でありながら、とても充実したものでした。

◆七月三十一日、岡山空港に朝七時に集合。まだ眠たい気持ちがありました。その眠気よりもこれから旅に対するワクワクする気持ちの方が強かったです。そこから約二時間のフライトで上海に着きました。気温が日本より高く、蒸暑かったのを覚えています。空港から移動した私たちが最初に向かったのは、時速三百kmで走るリニアモーターカーでした。そこからみた初めての中国は高層ビルが建ち並び、道路がきれいに舗装されていて、私たちに中国の経済の発展を実感させるものでした。リニアモーターカーに乗ったあとは、初めての中華料理を食べまし

た。念願だった、あの「回るテーブル」でみんなとおいしくいただきました。昼食の後国内線でいよいよ目的地の大連へと出発しました。大連は高層マンションが建ち並び、都会的な印象を受けました。市内のホテルに泊まり、中国での一日目が終わりました。

◆八月一日、ホテルからバスに乗って、大連第一中学へ向かいました。会議室で現地の生徒と対面しました。その生徒たちは日本語を学んでおり、私たちとの会話はすべて日本語を話してくれたのでとても驚きました。ホームステイ先の生徒を確認した後、歓迎会を開いていただきました。私たちも事前に集まってグループごとに作り上げたパワーポイントを使って私たちの街である岡山を紹介しました。ホールに移動してからは、中国の伝統の楽器での演奏、歌などを披露してくださいました。私たちも岡山の伝統的な踊りである「うらじゃ」を披露し、最後にはみんなにも参加してもらって一緒に踊りました。そして生徒たちと共に学校の近くのお店で昼食をとりました。午後は、生徒たちの授業にお邪魔させてもらいました。英語の授業では、自分の意見をしっかりと相手に伝えようとしている生徒たちを見て、圧倒されるばかりでした。私も負けていられないと、日々の学習の

取組を反省させられました。そして最後はまた会議室に戻り、互いに質問をしました。その会話の中で分かったのは、生徒たちの勉強量の多さです。彼らは朝早く学校に向かい、日本に比べて長い時間のコマの授業を乗り越え、放課後は部活をして、そして家に帰り、それぞれ塾に通っているのです。さらに聞いてみると、多くの生徒が日本の大学への進学を視野に入れていることがわかりました。センター試験に仕組み、外国人受け入れなどの制度についてたくさん聞かれました。このディスカッションはとても有意義な時間となりました。そしてその日は





ホームステイ先に泊まらせてもらいました。パートナーの生徒にはお姉さんがいて、彼女も日本語を学んでいて、少し日本語の宿題を手伝ったりしました。私は将来、外国で日本語を教える教師に興味があったので、とてもいい経験となりました。ご飯も外食に連れて行ってもらい、おいしい中華をごちそうになりました。日本語のわからないお母さんに連れられながら、お風呂に連れて行かれ、気が付いたら台に乗せられていて突然「垢すり」をされる、なん

なくても案外大丈夫なのだなとも思いました。素敵なお家族との出会いにも感謝です。

◆八月二日、朝起きて準備をしたらパートナーと学校に向かい、他の生徒たちと合流して、カラオケに行きました。中国のカラオケはなんと本家日本のカラオケを超えていて、とてもハイテクでした。まさか中国で日本の歌を大声で歌えるとは思いませんでした。彼女たちは日本の歌も知っていて、一緒に歌いました。そして、再び学校に戻り、お別れの時間になりました。約一日のホーム

ステイでしたが、中国の人々の温かさにふれました。学校を離れてその後、私たちは、岡山県進出企業の倉敷化工の工場を訪問しました。私はそこで感動しました。私はそこでは日本人と中国人の従業員の人たちの強い絆を見たのです。彼らは互いに笑顔で、助け合いながら仕事をしています。私は「世界はこうなるべきだ」と思いました。その日は一日目と同じホテルに戻り、三日目は終わりました。◆八月三日、朝からバスで空港を目指しました。楽しかった大連と別れを告げ、私たちは上海に向かいました。まず向かったのは「森ビル」



と呼ばれる中国で一番高いビルで、

す。上からの景色はとても綺麗で、家や車がおもちゃのように小さかったです。その後、上海の町でたくさん買い物をしました。ガイドさんに教えてもらった簡単な中国語で、お店の人と話をしながら商品を探し、賢く、楽しく買い物ができました。(断りきれず、たくさん買わされた人もいました) 日が落ちてくるころ、上海の「百万ドルの夜景」を見にいきました。夜に輝く光たちはとても美しく、うっとりしてしまいました。そして夕食。四日も経てば、中国の味付けにもなれてきたのか、みんなどんどん箸が進んでいました。夕食後、上海雑技団を見に行きました。テレビなどでも見たことがあります。実際に見るのはやはり感動し、華麗な舞のあまりの美しさに思わず、涙があふれ出てしまいました。こちらがハラハラする場面もありましたが、彼女たちの驚異のバランス力に驚かされながら、一日が終わりました。

◆八月四日最終日、上海の博物館を訪れました。さすが中国、四千年の歴史を有しているのでたくさん展示物があり、ゆっくり館内をみて勉強することができました。その後の中国最後の食事は、あの小籠包を食べることができました。あふれ出る肉汁とともに十分に本場の味を堪能できました。

そしていよいよ帰国の時となりました。今回の旅で感じたことはやはり「行ってみたいとわからない！自分の目で、耳で、体で感じないとわからない！」ということ。もちろん五日間という本場に短期間で、中国の人々のすべてを見ることができたわけではありませんが、私は感じました。中国の人々はとても優しく、温かいのです。さらに私は皆さんの感謝の気持ちを再認識できました。こんな素敵な機会を与えてくださった協議会のみなさん。私たちがずっと一緒にいて案内してくれたツアーコンダクターのみなさん。五日間共に旅してくれた七人の仲間。たくさんさんの出会いに感謝するとともに、中国へ行くことを応援し支えてくれた両親にも感謝しています。本当に素敵な体験となりました。人間として成長できたと思います。

谢谢你们！

希望している旨を伝えた。歓迎セレ
モニーの後、校内見学を楽しみにし
ていたのだが、その後は南昌第二中
学主催の昼食会場へと向かった。大
変残念であったが昼食会場で万副校
長と情報交換ができたのは良かった。

昼食後、噴水と音楽が楽しめる
秋水公園と江西省と友好交流をして
いる都市の記念碑や記念植樹が集め
られている国際友誼林を見学した。
その後、南昌昌北空港から次の訪問
地である雲南省へ向かった。約二時
間のフライト（私はかなりきつく感
じた。）で昆明長水国際空港に着い
た。午後九時半頃であった。夕食は
機内食で済ませたことになっていた

が、市内のレストランに繰り出し
た。ホテルに帰った時には午前〇時
を回っていた。

十月十九日（三日目）

麗江は昆明から約六〇〇キロ北の
所にあり、昆明長水国際空港を発っ
て一時間弱で麗江三義空港に着い
た。麗江は象形文字の一つトンパ
（東巴）文字を使い、独自の文化を
持つ少数民族ナシ族が作った、標高
二四〇〇mの町である。チベットと
雲南を結ぶ要衝の地として栄えた。
玉龍雪山に代表される大自然が周囲
に広がり、ユネスコの世界文化遺産
にも登録されている。昼食後、麗江
古城を見学した。石畳の道、清らか
な水が流れる水路、そしてそれに架
かる石橋、明清時代の木造建築など
を見て回った。日本人主演の映画の
ロケ地にもなったとか。多くの観光
客で賑わっていたので、のんびりと
見て回ることはできなかった。

十月二十日（四日目）

いよいよ玉龍雪山の雄大な自然を
楽しむ日が来た。シャトルバス、
ロープウェイ、電気カートを乗り継

いで雲杉坪（うんさんへい）と呼ば
れる標高三二四〇mのこぢんまりし
た盆地に到着した。そこには草原が
広がり山羊が放牧されていた。草原
の周囲に遊歩道があり、散策しなが
ら雪を頂いた雄大な玉龍雪山を楽し
む予定だったが、雲に隠れて見るこ
とができなかった。帰りのバスの中
から全貌が一瞬なりとも見ることが
できたのは、何よりの救いであっ
た。気を取り直して、次の予定地ナ
シ族の村、白沙村に向かった。昔な
がらの家屋が多く残っている村で、
当時の豪族木氏がナシ族・ペー族
（白族）・チベット族・漢族の絵師に
描かせたと言われる白沙壁画を見学
した。

昼食後、約四時間バスに揺られて
大理市に到着した。大理はペー族の
居住エリアで四〇〇〇m級の峰が連
なる蒼山と、澄んだ水を湛える洱海
などからなる風光明媚なところであ
る。藍染めをしている民家を見学し
てからホテルに入った。

十月二十一日（五日目）

ほぼ正方形をした城壁に囲まれ、
東西南北に大きな城門がある大理古

城を見学し崇聖寺三塔へ向かった。
崇聖寺は唐の時代に立てられた仏教
寺院である。三塔が水面に映え美し
く輝いていた。近くに日本人僧侶の
供養塔があるとの説明を聞き驚い
た。昼食を済ませ、大理空港から約
一時間半のフライトで昆明空港に到
着し、その後ホテルに向かった。

十月二十二日（六日目）

飛行機を乗り継いで、帰国の途に
ついた。

今回の訪中に参加して、それぞれ
の地域の文化・歴史そして雄大な自
然に触れることができ、大変貴重な
体験をさせていただいた。

私は生徒同士の交流事業に幾度か
携わってきた。生徒が別れるときの
光景はいつも同様で、目に焼きつい
ている。異文化理解のために、まず
は触れて見るといふことの大切さを
痛感している。グローバルな人材育
成の観点からも、若い世代の交流が
ますます活発に行われることを願っ
ている。今回は生徒交流の計画はな
かったが、機会があれば、交流事業
に携わってみたいと思っている。



滕王閣

「夢」を実現できる40年の伝統校

旭川荘厚生専門学院

＜旭川キャンパス＞

児童福祉科
(保育コース・幼保コース)

第1看護科

〒703-8560 岡山市北区祇園866
電話 (086)275-6846・FAX (086)275-0018

＜吉井川キャンパス＞

介護福祉科

精神保健福祉

〒704-8126 岡山市東区西大寺浜610
電話 (086)944-6911・FAX (086)944-6922

<http://asahigawasou.ac.jp/gakuin/>



岡山商科大学孔子学院

21世紀はアジアの時代、中国語を学ぶ絶好のチャンスです。
中国政府認定講師による中国語講座開催中!

☆HSK3級合格を目指す長期生コース
15週学習を通じて、HSK試験(中国語能力認定試験)3級合格を目指します!
※会社や団体への出張講座、子供向けコース・太極拳コースも開催中!

・お問い合わせ/お申し込みは
岡山商科大学孔子学院 〒700-8601
岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-252-0642(内線521) FAX 086-255-6947
<http://www.osu.ac.jp/koushi/>

出張中国語講座
新HSK試験5級をめざす
特訓コース

中国語講座(2014年度前期)
(2014年4月3日～8月26日)

子供向けコース(全15回)
毎週土曜日(11:00～12:00)

太極拳コース
毎週木曜日(14:00～15:00)



学校法人 中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院(現代生活学研究科
子ども学研究科)

中国短期大学

●総合生活学科 ●保育学科 ●英語コミュニケーション学科
●情報ビジネス学科 ●専攻科(介護福祉専攻)

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属中学校(中高一貫コース)

ひとりひとりの能力を最大限に引き出し、伸ばすとともに、自ら学び自ら考える人間を育てる。

- スーパー選抜クラス：東大・京大・国立大学医学部等の難関大学への進学を目指します。
- 選抜クラス：国立大学・私立大学への進学を目指します。

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
岡山理科大学附属中学・高等学校 中高入試広報室
TEL (086)256-8527 FAX (086)256-8526

未来をつむぐチカラ。



「尾崎商事株式会社」は、「菅公学生服株式会社」へ社名変更いたしました。



菅公学生服株式会社 岡山営業所

〒701-0202 岡山県岡山市南区山田2316-28
TEL 086(292)8255 FAX 086(292)8266



カンコー学生服 格帯 <http://kanko-gakuseifuku.co.jp/>

菅公学生服株式会社 お客様相談室 フリーコール 0120-712983 9:00~17:30/土・日・祝日除く。
※携帯電話、PHSからもご利用いただけます。

カンコー学生服は、子どもの健康と学業成就を願って学問の神様である菅原道真公(菅公=カンコー)にちなんで名付けられました。



赤ちゃんからお年寄りまで
一人ひとりの「よく生きる」のために。



事業領域
国内教育、海外教育、生活、シニア・介護、
語学・グローバル人材教育

くわしくはホームページをご覧ください。
<http://www.benesse-hd.co.jp/>

株式会社ベネッセホールディングス
岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17
東京本部 〒206-0033 東京都多摩市落合1-34

Benesseは、ラテン語の「Bene(よく)」と「esse(生きる)」を一語にした造語です。

眼鏡医療技術専門学校 ワールドオプティカルカレッジ



今年も全員就職が内定しました!

天職が見つかる「学校説明会」

5月24日(土)

6月14日(土)

13:30~16:30

ご予約は 0120(88)8233へ

高校生も社会人の方も、是非私たちの学校を見に来て下さい

資料は無料配布 随時見学できます ◀本校独自の特待生制度 奨学金制度があります▶ 高校卒業生コース (3年制) 短大卒業コース (2年制)

〒703-8282岡山市中区平井6-6-11 <http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp

中国語を話そう!

入門、初級、中級、上級、レベルに合わせて学びます。
見学歓迎! ご一報ください。

<費用> 入学金...3,150円(消費税込)

☆継続者は免除☆

受講料...31,500円(消費税込)/全24回

教材費...実費(2,000円~3,000円程度)

<申込方法> 申込書と、受講費用を事務局へご持参またはご送付下さい。
費用は前納にて一括納入を原則とします。

《問合せ先》

岡山中国語センター(岡山市日中友好協会内)

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086)225-5068

E-mail oknittyu@yahoo.co.jp <http://www.oka-rizhongyouxie.jp/>

グループレッスン、個人レッスンのご相談にも応じます。どうぞお気軽にお問い合わせください。



おかげさまで25周年!

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク!

- 中国東方航空で上海へ! 上海経由で中国・世界各地へ!
- エバー航空で台北へ!
- 大韓航空で韓国ソウルへ! 仁川空港経由で中国各地へ!
- お得なパッケージツアー(上海・台北・大連・青島など)
- 特徴あるこだわりのツアー
中国、ミャンマー、ラオス、ベトナムなど
皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい



株式会社アジア・コミュニケーションズ
ASIA.COM 観光庁長官登録旅行業第1816号 ©JATA正会員 IATA公認
岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F(〒700-0902)
TEL (086) 231-0334 FAX (086) 222-7732
<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第43号

発行：平成26年3月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社